令和３年（２０２１）

■ ９ 月 １ 日（水）（つづき）

② 第２区（南側の調査区）の調査

斜面貝塚の調査が本格化しました。

調査は各調査区の区分とともに、それぞれの内部に網目状に小さく区分して、掘り下げや遺物の記録などを行っています。こうして区分した区画のことを「グリッド」といいます。今回の調査では、１ｍメッシュでグリッドを設定しています。貝層の調査では、既存の 1ｍグリッドを４分割し、50×50 ㎝を基本単位として、深さ５㎝ごとに貝層の取り上げを行っています。現在 15～20 ㎝まで掘り進めました（写真１・２）。

写真１　貝層の調査
手前が谷側。貝層が手前に向って
傾斜していることがわかります。

写真２　貝層

徐々に遺存状況が良好な獣骨や魚骨が増えており、ボラのエラ骨がまとまっている箇所もありました（写真３）。

写真３　ボラのエラ（鰓）骨がまとまって

また、貝の密度が高くなっている場所も見られるようになりました（写真４）。場所によ

写真４　貝が密集するところも

※貝や骨を踏みつぶさないように、足場に注意し、土を取り除く作業も窮屈な姿勢になります。なお、貝の左側を縦に伸びる細長いものは、木の根です。

しょうど
っては焼土や灰がブロック状にまとまる箇所などもあります。

土器も大形破片や外面に煤が付着するものも見られるようになってきました（写真５）。
時期は後期中葉の加曽利（かそり）Ｂ１式を主体としています。

写真５　調査が下層に進むにつれて、土器の状態にも変化が